

複雑な仕組みの商品について

レバレッジ型・インバース型 ETF 等への投資リスクに関するご説明

レバレッジ型・インバース型 ETF等への投資にあたっては以下の点にご注意ください。

- レバレッジ型・インバース型 ETF 等は、主に短期売買により利益を得ることを目的とした商品です。
- 投資経験があまりないお客さまが資産形成のためにこうした ETF 等を投資対象とする際には、取引の仕組みや内容を十分に理解し、取引に伴うリスクを十分に認識することが重要です。

1. レバレッジ型・インバース型 ETF(ETN)について

ETF(Exchange Traded Fund、上場投資信託)は、特定の指数・指標に連動する金融商品です。ETFは、取引所等で売買する場合(※)は、「(取引時間中は)いつでも売買できる」、「価格がわかりやすい」といった特徴があります。ただし、ETF には、レバレッジ指数・インバース指数、海外の指数・指標に連動する商品など、大きな価格変動を伴う商品もあり、留意が必要です。

- ※ 当社では、米国 ETFは国内店頭取引のみの取り扱いとなりますので、取引所での売買はお受けしておりません。
- ※ ETN(Exchange Traded Note)も、特定の指数・指標に連動する金融商品であり、ETF と類似の特徴があります。当社では、取り扱いいたしません。

また、コモディティ(商品)先物指数を対象とする ETF 等については、原資産であるコモディティ価格(現物価格)には 1 日の値幅制限がない一方、これらの ETF 等の価額には値幅制限があることから、相場急変時に ETF 等の価格が原資産の価格と連動しないケースが生じる可能性があります。

2. レバレッジ型・インバース型 ETF に係るリスクとコスト

レバレッジ型・インバース型 ETF は、指数・指標の値動きのレバレッジ倍(またはマイナスのレバレッジ倍)の値動きを日次(1日)で達成するように運用されています。

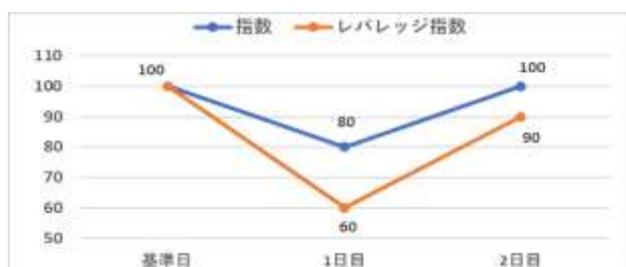
レバレッジ型の商品は、レバレッジの代わりに「ブル」、インバース型の商品は、インバースの代わりに「ベア」と表示されていることもあります。

例えば、「S&P500」の日々の値動きの2倍の値動きを目指すレバレッジ型 ETF は、「S&P500」が1%上昇した日には、2%の上昇になることを目指して運用されます。

しかし、日次ではなく2営業日以上での運用期間で比較した場合には、以下の例に示すとおり、当該 ETF の価格は、参照する指数・指標の価格のレバレッジ倍(またはマイナスのレバレッジ倍)にならない(レバレッジ倍超または未満となる)可能性があることに注意が必要です。

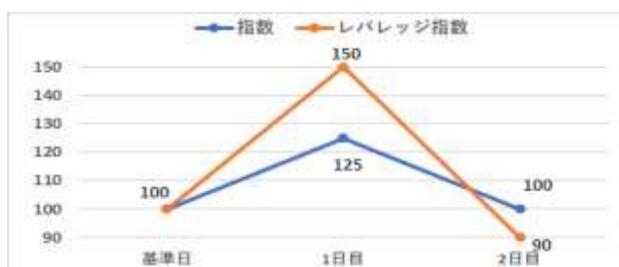
<例①> 指数が1日目「下落」、2日目「上昇」の場合

日々の値動き			基準日からの値動き		
	1日目	2日目		1日目	2日目
指数	-20%	+25%	指数	-20%	0%
レバレッジ指数	-40%	+50%	レバレッジ指数	-40%	-10%



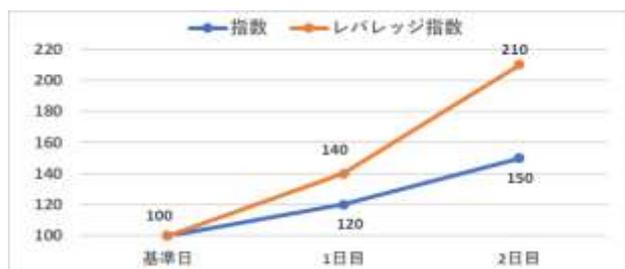
<例②> 指数が1日目「上昇」、2日目「下落」の場合

日々の値動き			基準日からの値動き		
	1日目	2日目		1日目	2日目
指数	+25%	-20%	指数	+25%	0%
レバレッジ指数	+50%	-40%	レバレッジ指数	+50%	-10%



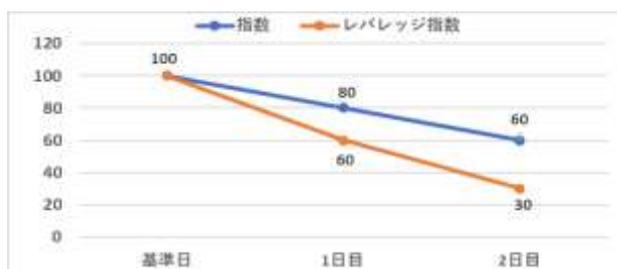
<例③> 指数が1日目「上昇」、2日目「上昇」の場合

日々の値動き			基準日からの値動き		
	1日目	2日目		1日目	2日目
指数	+20%	+25%	指数	+20%	+50%
レバレッジ指数	+40%	+50%	レバレッジ指数	+40%	+110%



<例④> 指数が1日目「下落」、2日目「下落」の場合

日々の値動き			基準日からの値動き		
	1日目	2日目		1日目	2日目
指数	-20%	-25%	指数	-20%	-40%
レバレッジ指数	-40%	-50%	レバレッジ指数	-40%	-70%



注1) なお、中長期の期間をとった場合、一般的に株価は①や②のように上下動を繰り返すことが多く、③や④のように一方向に上昇又は下落が続くケースは少ないと考えられます。

注2) 表は例示であり、特定の株価・レバレッジ指数の動きを示すものではありません。実際の ETF 等の価格は、信託報酬等のコスト負担や先物市場の値動きにより、1日であったとしても「原資産の2倍」といった運用目標を達成できるとは限りません。

なお、ETF 等の市場価格は取引所において需給を反映して決定されるため、市場価格と基準価額や ETF 等保有資産の純資産価値は一致しないケースもあることに注意が必要です。

注3) 対象となる指数・指標の上昇局面、下落局面いずれの場合においても、対象となる指数・指標が一方向に動く場合と、上昇下落を繰り返す場合とでは、対象となる指数・指標が最終的には同じであったとしても、価額の水準は異なります。

このため、レバレッジ型・インバース型ETF等は主に短期売買により利益を得ることを目的とした商品であり、投資経験が少ない個人投資家の方が中・長期の資産形成を目的としてレバレッジ型・インバース型ETF等を投資対象とする場合には十分な注意が必要です。

また、レバレッジ型・インバース型ETF等は、参照する指数・指標に連動させるため、先物取引を用いた運用を行っています。一般的にレバレッジ型・インバース型ETF等は先物取引コストを負担しているほか、先物取引の期限(限月)を乗り換える際に、リスクが生じることに注意が必要です。

また、これらのリスク・コストは、ETF等の上場商品に限らず、公募型投資信託で販売されているレバレッジ型・インバース型商品であっても同様です。

こうした金融商品の取引に当たっては、取引の仕組みや内容を十分理解し、取引に伴うリスク・コストを十分に認識したうえで、自己の財産、取引経験及び取引の目的等に照らして適切であると判断する場合にのみ、自己の責任において取引を行ってください。

CHEER 証券株式会社